

令和六年十一月吉日初版作成

永遠の生命を得る

高嶋善三郎

目次

- 永遠の生命を得るとは・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 真の祈りを行うには・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 神聖復活の印の効果を最大限有効にする・・・・・・・・ 7

お願い

既に作成した資料（バックナンバー）は、ウェブサイト『白光北陸』のブログ欄に掲載しています。

より分かりやすくするため、ご感想があれば、お聞かせください。

次の連絡先にお願い致します。

（スマホ）090-3346-6619

（メールアドレス）zensan@peach.ocn.ne.jp

永遠の生命を得るとは

「永遠の生命を得る」とはどういう意味でしょうか。
これを考える上で、参考になる、次のお言葉があります。

「今は何か。私の言おうとしている今は、現在の時間的今ではなく、天地縦横、永遠につながっている今である。過去世も現在も未来もすべてを含んでいる今なのである。今を聞けば永遠がその中にあるのである。故に今を真剣に生きれば、それは空になり、空の中にはやはり永遠の生命が生き切っている。私達の生命のひびきは空からひびいてくるものであり、永遠の生命からひびいてくるものなのである。」

今に真剣であるということは、過去世を現在に生かして、現在を未来に生かし、神の永遠の生命を輝かすことになるのである。

今が永遠につながっているものと、信じて目の理想、行動を今の一瞬、一瞬に生かしてゆくものは、輝く神性の具現者であり、栄えある神我一体の完全な人間像を築き上げ得るのである。たとえいかに悪しき過去世をもつものであろうと、今を生きることに真剣であれば、過去世の

悪行は善行に転回されて、生かされてゆく。故に今の一分一秒はゆるがせにできない。今を無駄に消費することは、生命を殺し、死なせていることになる。

心の栄養になること、魂にプラスになることを真剣に考え、今を生かしてゆかねばならない。人間の生命など刹那的なものだ。過去なんて、未来なんてない。だからその刹那の生命をなるべく楽しむことだ。といって、五感の快楽にふけてしまっただけは、それは空虚なのである。そうした行為は生命をけする悪業である。神を宿す今と、業の今との見分けが大切である。前者の今を生かし切れば、遂には仏となり、後者は空虚であるから、永遠に悟れず、己の魂を枯死させていく。

永遠につながる今とは、どのように理解すればよいのでしょうか。

この肉体界三次元の世界と高次元の世界は、波動によってつながっているのです。私達の波動を高めていけば、五次元の世界に行けるのです。また肉体を保持すれば、五次元の世界の自分をこの三次元の世界に現わすことが出来るのです。高次元の世界には、時間という概念がないのです。破壊と創造が同時に行われる世界なのです。ですからこの三元の世界と高次元の世界は、今という概念でしか繋がっていません。

今を眞剣に生きることが、自分の波動を高め、喜びに満ち、心が命じ
るまま自由自在に己の才能を駆使しお互いに風へく合つ、愛一元の五次
元の世界に上昇することになり、過去の誤る想念が存在できる低い波
動圏は自ずと光の中に消えてゆくことになるのです。

この言葉と、次の言葉を重ねてみると、はっきりしてくることがあ
ります。

「人間とは肉体だけではないのである。神、すなわち宇宙に遍満せる
生命が、その創造せんとする力が、個々の人格に分けられたもので、し
かも横においてつながり合い、協力し合つて、その与えられた力を、縦
横に發揮し、形ある世界に、完全なる神の姿を画き出そうとしているも
のである。そして神とは宇宙に遍満せる生命の原理であり、人間とは神
の生命を形ある世界に活動せしめんとする神の子なのである。」(『神と
人間』)

以上から「永遠の生命を得る」とは、宇宙神の分身たる自分をこの肉体
界において顕現するということであると云えます。

そのためには、「今が永遠にいつらなっているもの」と、信じて自己の想念、
行動を今の一瞬、一瞬に生かしてゆくことが不可欠であり、それに取
りかんでいけば、輝く神性を自分のものとする事が出来、神性の具現
者となり、栄えある神我一体の完全な人間像を築き上げることが出来
る」と解説されています。

ここで「今を無駄に消費することは、生命を殺し、死なせていること
になる。」というお言葉に注目してみましよう。

このように今を無駄に消費するように何故なったかといえば、宇宙神
の分身としてこの肉体界に降りてきたとき、私たちの光で崩れ、消えて
ゆく闇の姿を自分自身だと誤って認識したことにより、貧老病死の世界
を輪廻転生し続け、宇宙神から供給されているエネルギーを無駄に使用
することになり、気が付かないと己の魂を枯死させてしまうことになる
といわれているのです。

眞の祈りを行つては

私たちが永遠の生命を得るうえで、不可欠なものとして、教義や世界

平和の祈りや神聖復活の印があります。

まず、世界平和の祈りについて整理してみましよう。

本心を開発する、また消えてゆく姿への把われを手放し、それを光に還元することを有効にする上においても、祈りを深めることが大事です。そのためには祈りを正しく理解し、実行することが必要です。

『続・宗教問答』問125「とうしたら統一技術が最も短時間で上手になるのでしょうか。」に答えます。次のように解説されています。

「世界平和の祈りは何もことごとく必ずしもかしい形式はないので、ただ思い思いに坐って、のんびりと、意気ばらず世界平和の祈り言の中に、一切の想念を投げ入れてしまえばよい。その時大事なのは、雑念が起これてきたら、その雑念を目の前の想いで消そうと思わないこと、すべてこの想念を追わないこと、消えようと力まないことがよいのである。どんな雑念も放っておけば必ず消え去っていくのである。力まないということとは統一に於いて最も大切な心構えである。

人間というものは、本来神の子であるので、本心そのものなのであって、その本心を妨げている業想念が消えてゆきさえすれば、神の子の自分が

現われてきて、立派な人間になるに決まっている。そこで、現われてくるどんな業想念をも相手にしないで、ただひたすら本心の中、世界平和の祈りのひびきの中に入る練習をすることがよい。

どこのどんな統一修行でも、自力だけの統一ということは絶対できないのであって、必ずその人の守護の神霊の援助によるのである。援助といより、守護の神霊が統一させてくれるのである。故に統一にはまず守護の神霊の加護を願うことが必要なのである。この点、世界平和の祈りは常識的にも、はっきりわかる言葉で人類愛を表明しており、それにより自己の天命の完うされることの祈りも加わり、守護霊、守護神への感謝の言葉もあるのである。故に、世界平和の祈り言をしているだけでも、おのずと統一と等しい効果を上げているのである。」と。

しかし、自分の前に現われる、様々な「消えてゆく姿」を前に、どうしても、動揺しがちです。そのように、世の中のいろいろなことに対していけば、よいか整理してみましよう。

動揺してしまうのは、どうしても雑念が起これてきたら、その雑念を自己の想いで消えようと願ってしまっていることです。この現象を乗り越えれば

めには、真の祈りの在り方を理解することが必要です。

そこで、祈りについて、『白光誌』2023年1月号「今を真剣に生かしてゆく祈り」(原典…講話集『生命光輝け』)を元に主要点を整理してみましよう。

●肉体界の人間は、この肉体界を真の世界平和にする天命をいただきながら、常に肉体界という限界の中に思い悩み、憂い悲しみ恐れて、天の本体との間を絶え間なく業の波でへだててしまい、悪と不幸を生じて苦しんでいるが、守護霊、守護神は、肉体人間の天命を完つさせるため、日々業想念を浄め、導いてくださっている。その浄めのために力をさかれ、大きな浄め、世界人類救済のほうに全力を出し得ない状態に置かれている。

●祈りというのは、自分の生命を言(の)り出すこと。「私の生命は神と一つである。神の生命なのである」という宣言が祈りなのである。自分の肉体頭脳が祈るのではなく、宇宙神に向かって、直霊分霊が「私はあなたと一つです」と宣言するのが祈りなのである。肉体を動かしている生命と、宇宙に充滿している生命との合体が祈りなのである。人類の平和をお願いするのではなく、平和であると宣言する。平和の祈りが宇

宙神と一体となり、地球を覆つ迷いを光で消すのである。生命と生命が結びつき、宇宙神と直霊一分霊が結びつき、神の力がそのまま流れてくる。真の祈りは、神自身がするのである。本当の祈りは強いのである。

●肉体側のこちらからも、世界人類の平和の祈りをする。その祈りは、天の本体(直霊)や守護神、守護霊と等しき祈りになるので、その瞬間は肉体をつつむ業(汚れ)は一挙に突破され神我一体となるのである。今の一時、一時をこつした大乗的祈りにしてゆくことこそ、神の生命を生かし切って、真の世界平和の到来を促進させることになる。

●人間の本体は光明燦然たる神様である。その真理を知って、人類を救いたい、という大菩薩心を起こして、神様がよく働けるように、守護霊、守護神につながり、世界と日本の平和をひたすら祈ることである。そうすれば、不安はなくなり、不動の心になって来る。どんな苦しみが来ても、この大乗の祈りをしている人は、していない人よりも、心の底は安心しているので心に余裕があって、苦しくとも気が楽であり、苦しみが終われば、魂は素晴らしく飛躍するのである。

●肉体界の自分がすべてを天の本体(直霊)もしくは守護霊、守護神にまかせきつた空(くう)の状態であれば、自分の直霊、守護霊、守護神は、もてるすべての力を世界人類救済の浄めのために出すことが出来る。

これらの実態を理解できると、「人間は常に神様の中に心をいれて、絶対に心を動かしてはいけない。そうなるように、絶えず心がけることである。心を動かさなければ、痛みは痛みだけ、苦しみは苦しみだけ、それだけで終わる」(続・如是我聞265)」ということを受け入れることができるのではないだろうか。

私たちの先輩諸先生によって、実践により多くの手本が示されており、それをみてみましょう。

まず佐久間筆八長老導師の祈り方はとても、参考になります。

統一中ひたすら「世界平和の祈り」を唱え続け、その中に意識を統一されていたと聞いたことがあります。

この統一方法は、昌美先生も講師の皆様の前で、絶賛されていたことを今でも深く記憶に残っています。統一テープをかけ、五井先生の柏手と霊笛に心耳を傾け、その背後にある空のひびきを聴くことを徹底的になされたと私は推察します。

きっと空のひびきをキャッチされ、ご自身の身体から放射されていたのだと思います。私の最近の資料で中村天風師の安生打坐法を紹介させ

ていただきましたが、その方法より数段平易に実践できる、五井先生の指導されている「消えてゆく姿で世界平和の祈り」によって、さらに高い心境に到達されていたのではないかと、私は推測しています。

次に伊藤顕長老導師の統一方法です。私は伊藤先生がご存命中、先生指導の集会によく参加させていただきました。参加された方々は、集会終了後、清々しい気持ちで満足されて帰っておられたことを記憶しております。ある日先生から統一方法について「統一する時、『宇宙神と一体、五井先生と一体、守護霊、守護神と一体』と唱え、五井先生の柏手と霊笛のひびきに意識を集中すればよい」と教えて頂きました。この方法も、私の心境を高めるのに大変参考になりました。

私たちは、統一の基本を理解して、先輩諸先生のやり方を参考に、自分に合った方法を考察していけばよいということでしょう。

神聖復活の印の効果を最大限有効にする

神聖復活の印が2017年平成29年の7月に降ろされて、本年で7年目を迎えます。また、2021年の八月五井先生より、神聖復活の

印を最大限有効にする方法について、お言葉を頂いて三年目を迎えます。その中で次のようなご指導をいただきまいした。

これまで私たち神人は、人類の平和達成のため、ひたすら神聖復活の印を組み、宇宙根源の光を降ろし続けて来ていますが、五井先生は、「降ろす回数を重ねることも大切であるが、それだけでは神聖復活の印により降ろす宇宙根源の光は限りがあり、それを最大限にするには、降ろす私達自身の意識を宇宙根源の光に向け、受け入れ、私達に内在する神聖と同調（一体化）させる意識が重要である。そのためには、日々自分の想念の習慣を新しい神聖復活の習慣に変えるよう努力しておくことが大切である」と指導されています。

そしてこのお言葉を頂く二か月まえの『白光誌』2021年六月号の神聖の羅針盤「究極の真理をどう受け取るか」において五井先生から「美先生に伝えられた」…最後にはっきり汝りに言い聞かせる、と五井先生は前置きされ、次のように語られた。究極、自らを救うのは、宇宙神でもない。五井先生でもない。守護霊守護神でもない。言葉でもない。自分を救えるのは、自分自身以外にない」と厳しいご指摘がありました。またこのお言葉に関連して2020年一月号において、「物事は変らな

いのだ、人を変えよう、物事を自分のほうにもってこませよう、これ

は自分に必要なものだとやっても物事は変えられない。自分自身が変わらなければ、無理なのだ。それをやらずに、他人を批判することは誰でもできる。事実、愚か者ほど他人を批判したがる。

最も素晴らしい人は自分の神性を知っている人だ。批判もしなければ、人に媚びて、いたずらに褒めることもしない。神性そのものが現われているので、人が自然と寄って来る。だから、自らの習慣の想いを変えることだ。習慣の自分が出たら、それは新しい神聖復活の習慣をつけるチャンスなのだ。神聖復活の印を何千何万と続けている人々も、初めはそうだったのだ。自分の習慣の想いを神聖復活に変えさえすれば、何でも成就できる。誰が無理だと言おうとも、自分に、出来る絶対にやってみせるといふ強い信念と意識があれば、必ず出来るのだ。」と解説されています。

私たち神人は、自分自身の習慣の想いを神聖復活、即ち人間神の子観の習慣に変えることによって、より多くの量の宇宙神の光を降ろすことができ、それはまた自分の心境を高めるといふ好循環の進化を得るといふことでしょう。私たち神人は、毎日素晴らしいチャンスを与えられていると言えます。